



国鉄千葉労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (労働組合館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939番
(公) 043(222)7207番

96.9.30 No.4473

正念場の国鉄闘争勝利へー。 動労千葉第23回定期大会開催

動労千葉第二三回定期大会が、
九月二十九日～三十日の日程で鴨川市・鴨川館において開催され、
第一回目の議事が進められた。

今定期大会は、分割・民営化十年、JR情勢の転換点を迎えた歴史を画する激動の中、九六年九七年国鉄決戦一原則的労働運動の真価を問われる、正念場の国鉄闘争勝利への闘いの闘争体制を確立する、とりわけ重要な大会である。

勝利の展望を導きだした

恒常的ストライキ体制!

何よりも、われわれはこの間恒常的スト体制を武器に、「JR体制」に痛撃を与える、大きく勝利の展望を切り拓いたことを確認することができる。

この一年間、組織破壊そのものとしてあつた勝浦運輸区廃止一鴨川支部結成の闘い、千葉運輸区支部での夏季輸送の要員確保、休日労働拒否の闘い、幕張支部での「有機溶剤」作業をめぐる闘いは、今次JR情勢を端的に、象徴的にあらわしていると言える。

全組合員が一丸となつて闘い抜いてきたことが、自らを守り、組織を強化し、職場でのイニシアチブを握っていくことを、われわれは闘いの実践を通して再認識した。

一ノ一日目（九・二九）

このどんな困難にも立ち向かっていく労働者魂こそが、「JR体制」を打倒していく真理なのだ。

大会は議長団に、照岡（鴨川支部）、安西（京葉支部）代議員を選出し、冒頭、本部を代表して中野委員長が、闘いの骨格を指示すあいさつに行なった。

（要旨別掲）

続いて、来賓として、千葉労組会議・広田事務局次長、三里塚芝山連合空港反対同盟・北原事務局長、部落解放同盟全国連・高橋共闘部長、辻田館山市議会議員、労働金庫・池田営業部長、労働千葉弁護団・葉山弁護士、労働水戸・石井副委員長、労働連帯高崎・和田山委員長、江船橋市議、水野勝浦市議、○B会・白石副会長、労働千葉家族会・佐藤会長の各位から、それがあいさつを受けた。

祝電・メッセージ披露のあと、経過報告から議事の一九九六年度運動方針（案）までの提起を行い、一日目の日程を終了した。

大会に結集した解雇者の決意受け継がれる労働千葉の伝統！

五年体制の崩壊が日本の社会全体の変革を要求した。戦後の右肩上がりの成長が行き詰まり、あらゆる労働者の権利が破壊されようとしている。大失業時代の到来だ。世界中をおおう失業の危機は、戦争によつて解消されようとしている。日米共同宣言は、日米安保発効以降、初めてアジアを戦場に想定した安保体制だ。一方、沖縄の闘いは、県民投票で安保と基地にノーをつけつけるところまできていく。たいへんな時代の転換点だからこそ、労働者らしい方針をたてていくことだ。

国鉄闘争は唯一、労働者の利害を貫く闘いとしてある。日本の労働運動を終結させるのか、国鉄闘争を水路に復権させるのかが問われている。

に闘い抜いていることを日刊等で読むと、動労千葉の伝統が脈々と受け継がれていることを実感し、力強さを感じる、「国に闘う」、「反動命令に屈せず真の解雇撤回まで闘う抜く」という全員の発言を、会場に結集した全員の発言を、会場に結集

攻勢的にJR体制解体を！

— 中野委員長挨拶より —

この全組合員が自らの胸に刻みこんだ。

分割・民営化一〇年目、歴史を画する節目となつた、第二三回定期大会を期して、全組合員は本格的な「JR体制」打倒の闘いに進撃しよう！

（JRの差別・選別攻撃と日常的

選挙闘争については、今回はどこも支持する政党がない。動労千葉の闘いに支持・協力する候補があればということだ。

どんなときも組合として筋を曲げず、団結を高めていこう。